

十年一昔 (その八)

中央公民館界限

最近役場を訪れる人は、その庁舎内外の変貌に吃驚されることと思います。目立たない様な鉄柵に囲まれた庭はすっかり舗装され「役場の庭で泥水をはねられた」等というこども、これからはないでしょう。

特に「ここは変わったなあ」と気が付くのは、忠魂碑の奥の一角です。山荘とでも言いたいような古色蒼然とした旧庁舎が取払われて、近代建築の粋を集めた中央公民館が明るい姿を見せていることです。「分館が有って本館がない」「旧庁舎の二階が本館だそう



「そう言えば中央公民館の看板が出ていたが二階は商工会と教育委員会の事務局になっている」

「早く本館に使える本館が出来ないものか、中央公民館が欲しい」

町村合併の後、大総と上野の旧役場庁舎が出張所廃止と共に公民館分館に転用された頃から婦人会や青年団等社会教育関係者の間では、よくこんな会話が交わされ始め、分館が大総公民館、上野公民館と独立館と呼ばれるようになったと共に中央公民館建設の要望は益々高まって来まし

た。中でも婦人会の人々の熱意は素晴らしく「私達の手で私達の公民館建設促進をしよう。」と申合せ、百万円を目標にしてその基金調達に乗り出したのです。その手始めとして「婦人会役員が町から依頼された収納事務の報償金として個々に渡されていたお金を拠出する、そして、話合い等は当分の間茶菓等を省略する」ということになりました。この申合せは、役員改選毎に申し送られて忠実に実行されて来しました。血のしむ、と言った努力は要路の人の心を動かしたのでしょう。横芝町総合開発計画第一次三ヶ年実施計画には中央公民館建設が織込まれましたが、更に予定より一年早く四十四年度事業として採り上げられました。

昭和四十五年七月十日横芝町中央公民館は初代館長田中静氏を迎えて華々しい落成式を挙行了したので、この日屋形海岸に由縁を持つ創型会の中堅彫刻家花田一男氏は、教育文化の殿堂の誕生を祝って男女若人の立像を寄贈されました。その題名は因みじくも「希望」と付けられています。十年一昔、いや、もっと昔からの希望が稔ったこの中央公民館には、まことに相応しい記念として残るでしょう。また、落成記念展覧会の出品条幅の中に東町大木茂雄氏の作品は、わが横芝町の昔を、今を、そして将来を喜ぶ私達町民の誰もが考えている想いを卒直に表現していました。大木茂雄氏の了解をいただき、その詩を掲載して見ます。

昔小さな町であった
小さな役場であった
たたみの上の机の前に
羽織姿の町長さんが座っていた

大きな役場になった
ふんわりしたソファに
洋服姿の町長さんが構えて

もっと大きな町になる
大きな役場になる
立派な公民館が
堂々と出来あがったのだ

やがて人々の和をはらみ
町発展の胎動は脈うち
ここから生れる文化が
未来に向ってすすくと伸びる

七不思議「表門が二つあって裏門がない歪屋根」うっ蒼として古城さながらの旧庁舎、それにはその想出もあると思います。しかし、大木茂雄氏の詩にある通り、羽織姿の町長さんが洋服になったのです。町も大きくなりました。これから横芝町万歳と叫び、過ぎた十年の変遷を顧み、これからの十年に切替えて、将来に希望を託しましょう。(写真上は新装晴れやかな中

た、落成記念展覧会の出品条幅の中に東町大木茂雄氏の作品は、わが横芝町の昔を、今を、そして将来を喜ぶ私達町民の誰もが考えている想いを卒直に表現していました。大木茂雄氏の了解をいただき、その詩を掲載して見ます。

中央公民館、下は看板だけ、と「育委員会事務局と商工会の事務所になっていました。」

昭和45年度会員募集

1年



「交通災害共済」

300円

に加入しましょう！

8月31日に会員期間がおわりました。引き続き
再加入の手続きを済ませて下さい。

カツとする心の動き が事故のもと！

消防職員募集

八日市場市外三町消防組合
では、左記要領により職員の
募集をしております。

募集人員 四十名
申込み切日
四十五年九月末日

受験資格

十八才以上二十五才位の男子
子で八日市場市、野栄町、
光町、横芝町の各署所に一
時間以内で通勤可能な者、
学歴は、高等学校卒業以上
又は、同程度の学力を有するもの。

給与(税込)

高卒 二四、一六〇円
短大卒 二六、四〇〇円
大学卒 二九、九八〇円
賞与 年三回、昇給年一回
その他諸手当衣類の貸与等
があります。

受験申込み書の請求先及び問
い合せ先
八日市場市消防本部
電話 八日市場(2) 0740
野栄町役場管理課
電話 野手 4
光町役場住民課
電話 横芝(2) 1211
横芝町役場総務課
電話 横芝(2) 1111